

学校教育 目標	夢と希望をもち、21世紀を生き抜く児童生徒の育成
育成を目指す 資質・能力	〈創造〉探究力(自ら課題を発見し、解決に導いていける能力) 〈自主〉自己肯定感・自己有用感 〈協働〉他者とかかわる力

	学力状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 5・6年生とも、各教科で平均正答率が県・全国平均を上回っている。領域別正答率では、5年は、国語の「情報の扱い方」「書くこと」で県・全国平均を、算数の「変化と関係」「データの活用」で県平均を下回っているが、他の項目は、理科も含めて全て県・全国平均を上回っている。6年は、国語の「言葉の特徴や使い方」のみ県平均を下回っているが、他の項目は、算数も含めて全て県・全国平均を上回っている。 8・9年生では、各教科において、領域別正答率、観点別正答率ともに県平均、または全国平均を上回った結果となった。英語では、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに、国語では語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに、数学ではデータの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することに課題が見られた。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○単元末テスト・定期テストにおいて、前期課程は60点以下を7%以下、後期課程は30点以下を13%以下にするという指標を掲げ、低学力層の引き上げに取り組んできたが、全学年達成とはいかない。(平均値は前期課程8%、後期課程10.6%) ○授業では集中して取り組み、理解できているが、家庭学習が不十分で、学習内容が定着していない。 ○児童・生徒共に二極化している。
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ①「導入」「展開」「終末」の学習過程における「展開」を中心に「生徒指導の三機能」を生かした授業実践 ②児童生徒が主体的に取り組める「めあて」や「課題」の設定になっているかを視点とした授業の構築 ③ペア学習、班学習等の学習形態の工夫を図り、主体的に授業に参加することを意識させ、自分の考えを伝え合うことを大事にした授業実践 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ①昼休みや放課後の補充学習の活用(学習内容の定着や個別指導) ②毎日の学習習慣を身に付けさせるための工夫(学習内容を指定する等) ③ICT機器の活用

学力に関する達成指標
単元末テストや定期テストにおいて前期課程は60点以下を7%以下、後期課程は30点以下を13%以下にする。

今後の 具体的 な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 (授業改善テーマ) ・主体的に学び、思いを伝え、進んで問題解決ができるこどもの育成 (授業改善の重点) ・「分かる」を支える手だての工夫×「深める・つなげる」振り返り	
	〈取組内容〉 授業改善の取組 ○教科の特性を生かした「分かる手だて」の共有 ○振り返りの視点や手立ての共有 ○1年から9年までを通して、授業の5原則の徹底	〈家庭・地域の取組内容〉 ○家庭での対話・声かけ ○読み聞かせ ○学習支援(昔の遊び・生活の体験、校区探検の見守り、米作りなど) ○週に一回以上の学習内容チェック
	〈取組指標〉 ○プレート(本時の目標・課題・今日の流れ・まとめ・振り返り)を活用した授業展開100% ○毎時間、授業5原則に基づく学習指導の実施(2分前着席、私語なく集中、しっかり聞く、はっきり話す、自ら学ぶ)	〈家庭・地域の取組指標〉 ○読み聞かせを月に1回 ○学習支援を学期に2回
	〈検証指標〉 ○「授業が理解できて楽しい」児童生徒の肯定的評価90%以上 ○単元テスト・定期テストでの前期課程60点以下7%以下後期30点以下13%以下 ○「自分の意見を伝え友達の意見を参考にするなどして自分の考えを深めている」児童生徒の肯定的評価90%以上	〈家庭・地域の検証指標〉
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ○補充学習の実施・家庭学習の内容を充実させる課題の出し方の工夫・個に応じた指導・習熟度別の宿題(低学力層の底上げ) ○読書指導	